鼓室形成術時に用いた外耳道パッキングガーゼの細菌培養結果に関する検討

吉田尚弘　松澤真吾　原　真理子　長谷川雅世
新鍋晶浩　金沢弘美　飯野ゆき子
自治医科大学　附属さいたま医療センター　耳鼻咽喉科

鼓室形成術後の外耳道パッキング素材にはガーゼ，ゼルフォーム，メロセル，また抗菌薬，イソジン，BIPP軟膏などを充填素材に塗布，浸潤させ使用する種々の方法が報告されている．外耳道皮膚を剥離挙上する操作を伴う鼓室形成術では術後の外耳，中耳腔の良好な形態形成に何らかのパッキングが必要となる．術前および術後第4，5病日に抜去した手術時にパッキングしたガーゼの細菌培養結果を比較し，パッキング，今後の抗菌薬の使用法について検討した．

対象は平成22年10月から24年5月までに行った鼓室形成術症例393例である．耳漏のある症例では術前に外来，あるいは入院の上抗菌薬を投与し，感染をコントロールしたあとに手術を施行した．術前に行った耳漏，外耳道細菌培養と第一交換で採取したガーゼ培養結果を比較した．鼓室形成術の際には抗菌薬は主としてPIPCを使用，術前検出された細菌の感受性に合わせて変更した．術終了時には外耳道に生理食塩水を浸したガーゼを挿入し，術後4から6日目に第一交換を行った．

術前術後の細菌培養の結果について報告し，今後の抗菌薬投与，投与方法について考察を加える．